

### 小ロットでも儲かる仕組みづくり目指す デジタルコンテンツファクトリーで更なる効率化・省力化

所在地：東京都渋谷区  
猿樂町19-2  
代表者：福田真太郎氏  
TEL 03-3462-1181  
FAX 03-3462-1185  
<https://www.shinkousha.co.jp>

株式会社真興社は、JDFを導入している優れた企業を表彰する「CIPPIアワード」において、2009年に『プロセス自動化技術を最も革新的に活用した事例部門』および『最優秀プロセス自動化の導入事例ーアジア・パシフィック地域』の2つの賞を受賞するなど、早期から自動化や生産ワークフローの最適化に取り組んできた企業として知られている。オンライン環境を活かした柔軟な働く環境の整備や、顧客先との校正作業の効率化を進化させているほか、セキュリティ対策も強化するなど、制作環境の整備を進めている。また、テレワークシステムのハブサーバー化も行い、21世紀型の新しい印刷業の在り方に挑戦している。

現在、同社がさらに進めているのが、「Digital Contents Factory（デジタルコンテンツファクトリー）」への取り組みである。その根底にあるのは、「スマートファクトリー化」である。センサや設備を含めた工場内のあらゆる機器をインターネットに接続（IoT）し、品質などの様々な情報を「見える化」して、情報間の「因果関係の明確化」を実現させ、設備同士（M2M）や設備と人が協調して動作する（Cyber-Physical System）ことで実現させる状態を目指している。

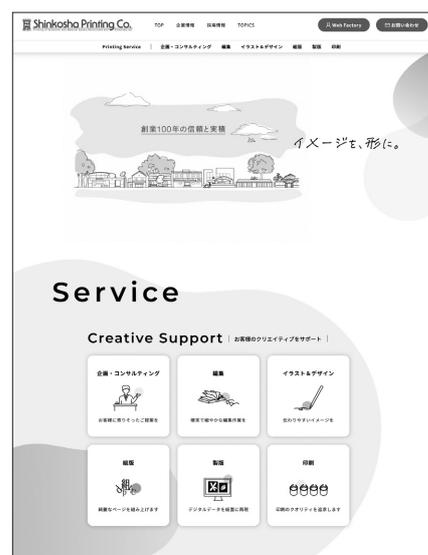
サイバーフィジカルシステムを実現させるためにも、これまで属人化していた作業の見える化やフローの再構築を行い、タッチポイントを減らすCIM化（コンピュータ統合生産）を実現。これにより、かつて「見積～受注～製品仕様～プリ

レス工程～面付～校了（責了）～製版～インキ量調整～印刷予定決定～刷版選別～印刷・刷了製品～検品～品質管理～納品～請求」まで15あったタッチポイント（実業務）が、今では「積算見積～受注～工程管理～印刷・仕上げ工程～納品・請求」の5つのタッチポイントにまで削減されている。

それでも福田社長は、従来の仕事の見通しについて厳しく分析。同社が主に取り組んでいる医療系の書籍市場も、大量生産から小ロット多品種へと変わっており、市場が半減しても、小ロットでも利益を生む体制を構築する必要があると考えている。

加えて、小ロットでも儲かる仕組みをつくるためにも、全工程を自動化の対象と捉えることが必要だという。全てのプロセスチェーンに目を向けることで、トータルコストによる競争力を高めることができるからであり、そのためにもデジタルコンテンツファクトリー（DCF）を進めている。

DCFの基本的な考え方は、様々な方法で取得したデータを読み取り、処理され、様々な方法で転送しアウトプットしていく。現在同社では、ワークフローシステムEQUIOS Onlineを基軸に、基幹業務システムPrintSapiensとの組み合わせで営業担当者が入力した見積もりデータがMISに登録され、そのデータを元に仕様が決定し、最適な生産工程に自動処理されるというフローが構築されている。担当営業マンが入力した内容が、製造現場に反



ホームページをリニューアルして新たな人材確保にも挑戦している

映される仕組みが機能することで、生産管理を行っている担当者は1人となり、人権費削減を実現している。その結果、「中間管理職が不要になるなど、人手不足への対応に繋がっています」と福田社長。

なお、DCFにおいては、オンデマンド印刷の強みを生かしたワークフローも活かしている。これにより書籍の在庫が不要となり、返品もなくなるなどトータルコストの削減に寄与している。

同社では今後、デジタル印刷システムの活用を、さらに進めることを考えているという。その背景には、オフセット印刷機の人材獲得が難しくなっているということがある。加えて、「オンデマンド印刷は誰でも扱えるシステムです。小部数化が進む出版市場への対応だけでなく、生産現場の多様化や効率化も進めることができます」と展望している。